

令和3年度第1回 旭川市中園廃棄物最終処分場監視委員会 会議録

日 時	令和3年5月21日～令和3年6月10日	
場 所	書面開催	
出席者 (意見書提出者)	<p>○ 旭川市中園廃棄物最終処分場監視委員会 委員15人(定数15人)</p> <p>・松藤敏彦 ・吉田英樹 ・小寺史浩 ・山口篤 ・荒川忠基 ・荒川恵美子・荒川信基 ・北邑英治 ・狩野弘美 ・有木祥次 ・林上紀子 ・津田一正 ・岡部賢一 ・山下歩 ・大橋雅子</p>	
公開・非公開	書面開催(コロナウィルス感染症拡大防止のため)	
傍聴者の数	-	
報道機関	-	
調査検討事項及び資料等	<p>(1) 令和3年度定例会議及び調査検討計画について</p> <p>(2) 令和2年度環境調査の結果について</p> <p>資料1…令和2年度旭川市廃棄物処分場ほか環境調査結果のまとめ 資料1-2…旭川市廃棄物処分場ほか環境調査業務報告書(概要版)</p>	
会 議	<p>調査検討事項1 (事務局案は、次第p2)</p> <p>令和3年度定例会議及び調査検討計画について</p> <p>(1) 事務局案に対する承認・不承認 ・ 承認 15人 ・ 不承認 0人</p> <p>(2) 結果 承認が過半数となったので、事務局案は承認された</p> <p>(3) 意見等</p>	
	委員1 (意見)	<p>現行委員は2年目となるが、特に公募委員はデータを見て内容を理解するのは困難と思われる。 次回の会議では、何故閉鎖した処分場に億単位の予算を投入することになったのか、その結果どのようなことが判明したのかを説明すると良いと思う。 自分としては、ブラックボックスが解明されたことが処分場のあり方を考える上で、この上ない収穫と評価している。</p>
	事務局	<p>監視機関の新任委員に対しましては、委員就任時に、個別に当監視機関が設置された経緯や中園処分場の閉鎖工事の内容などについて説明は行っていますが、限られた時間の中で多くの情報をお伝えしている状況です。 次回会議において、中園処分場で行った安定化促進対策</p>

		等についての説明を行うよう、準備いたします。
<p>調査検討事項 2</p> <p>令和 2 年度環境調査の結果について（報告）</p>	<p>（報告内容は、次第 p 3，資料 1 及び資料 1 - 2）</p> <p>(1) 報告内容の確認 内容確認済 15 人</p> <p>(2) 結果 全ての委員に報告内容は確認された。</p> <p>(3) 意見等</p>	
	委員 1 (質問)	p 15 浸出水と p 17 地下水（下流）のダイオキシン濃度が例年より一桁高いが、何か理由（サンプリング等）があるのか。
	会 長	<p>ダイオキシンには多くの異性体があり、その測定濃度に毒性の強さの係数（毒性等価係数）をかけて毒性等量を算出します。測定されたダイオキシン類濃度は大変低いレベルであり、そのレベルでの 10 倍程度の変化は測定誤差と考えられます。浸出水濃度は、平成 30 年と較べると 5 倍と非常に大きな差とは言えません。</p> <p>地下水について、最終処分場の基準にはダイオキシン類は項目としてありませんが、環境基準に近い数値となっています。しかし処理水中の濃度は低いことから、自然由来の変動と考えられます。</p>
	副会長	<p>補足として、環境省の全国での地下水中のダイオキシン類の測定（約 500 箇所）の最新の結果では、平均 0.047 pg-TEQ/L（変動範囲は 0.0085 ~ 0.31 pg-TEQ/L）であり、今回の地下水の 0.19pg-TEQ/L はこの範囲に入っております。</p> <p>環境省サイト：https://www.env.go.jp/press/109407.html</p>
	委員 2 (意見)	<p>この会議は一般の事務的な会議とは異なり、様々なデータから処分場の内部状況を理解するための会議なので、質問等も全員が共有する中でのやりとりが望ましい。</p> <p>次回の会議は、一堂に会した状態で開催されることを望む。</p>
	事務局	<p>当監視機関は現処分場及び中園処分場の維持管理についてだけでなく、周辺地域の環境保全等についても貴重な御提言をいただいている、重要な会議であると認識しています。今回は緊急事態宣言下でやむを得ず書面審査とした例外であり、次回は通常の会議が開催できることを期待しています。</p>
	委員 2 (質問)	<p>資料 p 27，11-5（SS）のデータから、廃棄物が地中でどのような継続変化を起こしていると考えられるのか。</p>
	会 長	<p>SS は固形物の量（浮遊粒子状物質）であり、有機物量など、安定化にかかわるものではありません。</p> <p>p 19 に記載しているようにモニタリング井戸から採取したもので、降雨などの影響によるものと考えられます。</p>

副会長	11-5は、処分場では最頂部の平地部分（処分場の調整池から見て、一番奥側）にある観測孔で、この観測孔内のSSが多少変動しても、ここから数百メートル以上廃棄物層内を流下する段階で層内に補足されて浸出水への影響は少ないものと考えられ、浸出水中のSSは11-5より極めて低いレベル（50mg/L未満）になっています。
委員2 (意見)	中園処分場内の5つのモニタリング地点について、それぞれ廃棄物の埋立時期、新旧が分かるよう表示して欲しい。
事務局	次回以降、御意見を反映し表示します。
委員3 (意見)	p18とp19の調査結果で、基準値を超えている項目がある。いつもは学識経験者委員の説明を聞いて納得しているが、(書面会議であるため)今回はそれがなく、どのように判断すべきかわからない。 今回はやむを得ないが、こういった専門知識を要する内容の会議は、参集会議での開催が望ましい。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> 大腸菌群数については放流水で低く、監視委員会では、従来より自然由来であると説明されています。 SSについては、前記の委員2の質問に対する回答と同じ内容となります。
委員4 (意見)	河川の下流調査は他の影響が多いので、必要ないと思われる。(何故高い数値となったかの検証ができないため。)
事務局	環境調査地点数については、平成16年度から平成22年度にかけて、段階的に大幅な見直しを行い現在に至っています。次回以降の会議ではその経緯を説明し、河川水測定の是非を審議させていただきます。
委員5 (意見)	河川のデータについて、現処分場と同様で、大腸菌群数が参考値に比べて大きい状態ではあるので、上流と下流のデータを過去3年ではなく、過去10年程度の傾向を見ておいた方がいいかと思います。
事務局	過去10年分の河川データは次回会議でお示しします。
委員5 (意見)	モニタリングしているガス抜き管でのガス発生量は小さいのですが、常時蓋をしている状態なので、メタンガス濃度が高くなっていると思われます。今後廃止に向けては、常時蓋を開けた状態にしておいて、測定することを検討した方がいいかもしれません。
事務局	御意見の内容につきましては、次回以降の会議において審議させていただきます。